そしていよいよ迎えた美空富士と白閃光との大一番。呼び出しの声に両者が土俵に上がると大歓声の館内のボルテージは最高潮に。一気に優勝を決めて欲しいと願う桐壺親方と全勝優勝に期待を寄せる協会陣に、カド番脱出には負けられない磯ノ海親方、更には二敗の力士に僅かな望みを抱く親方達が固唾を飲んで見守るなか慎重な仕切りを続けて立ち上がった両者。

立ち会いで引きを見せた白閃光に対し、腰を落とし廻しを取り引きつける横綱。その後も更に廻しを引きつけ胸を合わせ吊り上げるようにして白閃光の体勢を崩すと、左を差し向正面に寄り切って全勝を守ると共に優勝を果たした。この瞬間に歴代の横綱が成し遂げられなかった七度目の優勝で名実共に名横綱に名を連ねる事になった。これには感無量の様子で各親方から祝福の言葉と同時に差し出される握手に満面の笑みで応える桐壺親方であった。

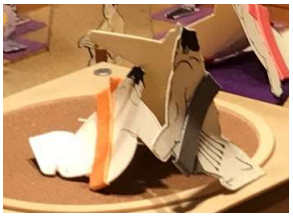
十日目、白閃光を寄り切り、早々と優勝を決めた。

十日目に優勝が決まりやや盛り上がりに欠ける展開となったが、美空富士の全勝優勝に期待を寄せて迎えた千秋楽。やはり注目は横綱同士の結びの一番。既に優勝は決まってしまったが平成最後となる取り組みとあって、両者には熱戦を期待する大声援が送られ揺れる国技館。そんな大相撲に期待する声援のなか立ち上がった両横綱。互角の立会いだったがすぐに腰を落とし若乃嶋の左を奪う美空富士、攻め手を緩める事なく左に回り込み凌ぐ若乃嶋を向正面に寄り切って見事に全勝優勝を果たした。

負けた若乃嶋も今場所は好調さを見せ十日目まで優勝争いを演じていただけに、阿古耶川と大神楽からのとりこぼしが悔やまれる。またしても来場所こそはと言われる悔しい場所となった。来場所こそはとはいつになるのか、師匠はもとより協会陣さらには気の長い若ノ嶋ファンからも激励の言葉がかかる。そろそろ目を覚ましてもらいたいものだ。

そのほか上位陣の結果は今場所をカド番で迎えた両大関は、春ノ翔は八勝を挙げ大関の座を死守したが白閃光はあと一つ及ばず大関の座を譲る結果となった。

関脇の四名は魁電が八日目まで優勝争いを見せ8勝を挙げ大関昇進を果たしたが、ここふた場所ベテランの狂い咲きと言われる程の活躍を見せた佐賀ノ海は惜しくも負け越して一歩及ばず負け越し、ひと場所で関脇から陥落、新鋭の英筏もあと一歩及ばず負け越し、大関復帰を目指した大神楽も5勝止まりで出直しとなり、小結の玄武岩も負け越し、新鋭の出羽翼は勝ち越しを決めそれぞれ明暗を分ける結果となった。



魁　電○(寄り切り)●佐賀海

また若手の中は勝間田部屋の朱雀湖は勝ち越して来場所も三役を狙える位置を確保、江戸川部屋の剛勇山は自己最高位の三枚目で三役を目指したが師匠の言葉通り家賃が高く3勝止まりで出直し、香具山部屋の夢力は九日目まで連敗を続け周囲を心配させたが残り二日を連勝して幕内残留を決めて香具山親方をひと安心させた。

朱雀湖○(押し倒し)●磯　光

あまりの不調さに「どこか怪我でも」との問いにも「大丈夫です！　来場所出直します。」といつもの様に言葉少なげに国技館を後にした。勝間田部屋の四季嶋はあとひとつ及ばず番付を下げる事となり、新入幕の友砂部屋の綱嵐は5勝止まり、九十九部屋の生駒山はなんとか6勝と勝ち越しここでも明暗を分ける結果となった。

平成最後となる第148回本場所は横綱美空富士による全勝優勝で無事に幕を閉じた。今場所は先場所に苦戦を強いられた桐壺部屋の逆襲があり、幕内全員が勝ち越しを決める活躍で優勝戦線を大いに賑わせた。その陰で旋風を巻き起こしていた磯ノ海部屋は上位陣が振るわず惨敗に終わり、必ず巻き返しを図って来るものと思われる。

来場所も桐壺勢の力士は好調を維持できるのか？磯ノ海部屋また他の古参部屋、新興部屋が待ったをかけるのか？来場所はいよいよ元号も変わり令和元年の場所となる。新時代の幕開けに令和最初の賜杯を手にするのは誰なのか？その記念すべき初日は風薫る季節、3週間後の5月11日に開催予定だ。令和元年の土俵も乞うご期待！

（香具山）

十両は剣竜が逃げ切り

十両は麻縄部屋の剣竜が9勝2敗で優勝を飾った。九日目を終えた時点で、1敗の剣竜を霧ヶ浜部屋の若巨が2敗で追う優勝争いとなっていた状況で十日目と千秋楽の取り組みが行われた。

この日は北海道から飛行機に乗って霧ヶ浜親方が国技館に駆けつけた。3人の十両力士を抱え、その3人すべてがすでに勝ち越しを決めて優勝争いを演じているという絶好調の今場所。「3人には頑張ってもらいたいですねェ！」と期待を込めて親方が見守る中、十日目に優勝争いトップの剣竜に若佑が挑んで寄り切りに破り、若巨は新鋭喜乃郷に勝って2敗を守った。

カーリングの聖地、北見から2泊3日で上京した霧ヶ浜親方。弟子たちの大活躍にご満悦の様子だ。

霧ヶ浜部屋は若柱も勝ち、十日目は全員が揃って勝って霧ヶ浜親方は大喜び。しかも、十日目を終えて、剣竜と若巨が2敗で並び、これを若柱と若佑が3敗で追う展開となり、自力での優勝のチャンスが出てきて「これはぜひ優勝したいですねェ！」と優勝に向けて霧ヶ浜親方は俄然欲が出て来て鼻息も荒くなって来た。

そして迎えた千秋楽。最初に登場したのは若巨。昨日、若佑に敗れた喜乃郷との対戦。弟子から取り口のアドバイスをもらったが、相手の作戦が上回ったか、逆に左を差される相手十分の体勢になられて寄り切りに敗れた。「あぁ！負けたか！」と霧ヶ浜親方は落胆の様子だが、剣竜と大櫓の勝敗如何ではまだ決定戦のチャンスが残されている。

喜乃郷○(寄り切り)●若　巨

「大櫓じゃ勝てないよ！」と弱気な発言の英親方。しかし、ここは優勝争いを面白くするためには頑張ってもらいたいところ。霧ヶ浜親方が固唾を飲んで見守る中、大櫓が予想に反してうまく左を差したが、その瞬間に剣竜の上手投げが炸裂。大櫓が土俵に叩きつけられた。決定戦を期待していた観衆からは「あ～あ！」とため息がもれ、祈るような気持ちで土俵を注視していた霧ヶ浜親方は肩を落として、「ダメかぁ！」と落胆の表情を浮かべた。

剣　竜○(上手投げ)●大　櫓

これとは対照的に、麻縄親方は笑みを浮かべるだけで冷静に優勝の喜びを噛みしめていた。剣竜は優勝とともに新入幕も確実とした麻縄部屋としては、魁電、剣灘に次ぐ3人目の幕内力士誕生となりそうだ。その他で入幕が予想されるのは、若巨、照の王、寶蔵。若巨は新生霧ヶ浜部屋として初めての幕内力士寶蔵は九十九部屋として生駒山に次ぐ2人目となる。